

レンジフード取付説明書

取扱説明書・取付説明書は必ずご使用になるお客様にお渡しください。

安全上のご注意

● 取付けの前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しく取付けをおこなってください。
ここに示した注意事項は、製品を安全に正しく取付け、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を示すために、誤った取扱いをするおそれがある内容を「警告」「注意」の2つに区分しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

警告：人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。

注意：人が傷害を負う可能性及び物的損害のみの発生が想定される内容。

お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

● 記号は行為を禁止する内容を告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。
● 記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容(左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください)が描かれています。

	● 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと 発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります		● 交流100V以外では使用しないこと 発火・感電の原因になります
	● アースを確実に取り付けること 故障や漏電のときに感電するおそれがあります アースの取付けは販売店にご相談ください		● 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的な資格者が工事をおこなうこと 誤った配線工事は感電や火災の原因になります
	● 自然排気型のストープを使用するときは、空気の取入口(給気口)により十分給気されることを確認してください 排気ガスが室内に逆流し、一酸化炭素中毒を起こすおそれがあります		● メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造骨物に金属製ダクトが貫通する場合は、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電気的に接続しないよう取付けを行うこと 漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります
	● 排気工事をされる場合は建築基準法(同施行令)および消防法との関連法規に従って法的な資格者が工事をおこなうこと 火災などの原因になります		● 本体とダクトは、可燃物との間を10cm以上離すこと 火災などの原因になります 詳しくは、所轄の消防署に問い合わせください
	● レンジフードは、薄板の金属部(壁内ラス網など)と接触しないよう取付けを行うこと 漏電した場合、発火するおそれがあります		● レンジフードの壁への埋め込みはしないこと 漏電した場合、発火するおそれがあります

	● 運転中は指や物を絶対に入れないこと けがをするおそれがあります		● 取り扱いは、必ず厚手の手袋をすること 鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります
	● レンジフードの取付けは十分強度のあるところを選んで確実に取付けを行うこと 落下によりけがをするおそれがあります		● 浴室など湿気の多い場所では絶対に使用しないこと 感電および故障の原因になります
	● 周囲温度が40℃以上になるところには取付けをしないこと 火災・故障の原因になります		● 使用禁止

取り付け上のお願い

● 下記は「建設工事」に区分され、関連する法令、規定に従って法的な資格者がおこなう必要があります。

- 大工工事(設置のための下地工事等)
- 配線工事(コンセントの設置、コンセント・コネクタ利用以外の配線接続等)
- 管工事(ダクト配管及びレンジフードからのダクト接続等)

流通業者(販売店)を通して組立・設置する場合は、「建設工事」とそれ以外の「組立・設置」を区別しておこなってください。

● 調理機器の幅はレンジフードの幅以内のものをご使用ください。
調理機器はレンジフードの前面より手前にはみ出して設置しないでください。排気効率低下します。

● 電源は専用コンセントおよびブレーカーを設けてください。
火災・故障の原因になります。

● 屋外壁面の排気出口に取り付けるベントキップまたはパイプフードの適気抵抗は400mm²/h時50Pa以上のものをご使用ください。
防虫網付きのものは目詰まりして排気性能が低下する場合がありますので使用しないでください。

● ダクトの不燃処理について
ダクトを50mm以上の不燃材料、または20mm以上の国土交通大臣不燃認定品の不燃材料で被覆してください。
● 施工要領は、各メーカーの「標準施工要領技術指導書」「検査要領書」に従ってください。

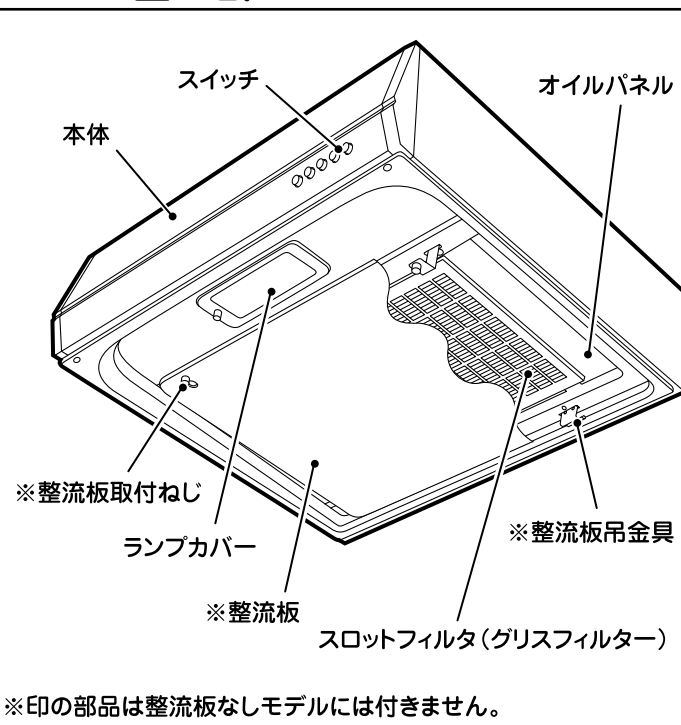
● 製品は調理機器の真上に取付けてください。
なお、製品取付高さは、製品の下端が調理機器の真上80cm以上になるようにしてください。

● 寒い地域ではダクトが結露し本体内に結露水が流れる場合がありますので断熱材を巻くなどの対応をしてください。

● 部屋の中央で料理される場合は、油煙が捕集されませんので、お台所の全体換気のために、他の換気扇と併用していただく場合は、よりすぐれた換気ができます。

● レンジフード取付面の補強部に、取付用ねじが確実に届くことを確認してください。
本体の取付用ねじは45mmの長さのものと同梱されていますが、壁下に石膏ボード等が貼られている場合は石膏ボード等の厚さを確認し、取付用ねじが確実に補強部に届くことを確認してください。また、レンジフード本体取付面には必ず不燃材を使用してください。

各部のなまえ



取り付け前の調査と準備

警告

- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります
- レンジフードは、薄板の金属部(壁内ラス網など)と接触しないよう取付けを行うこと
漏電した場合、発火するおそれがあります
- 本体とダクトは、可燃物との間を10cm以上離すこと
火災などの原因になります
詳しくは、所轄の消防署に問い合わせください
- 排気工事をされる場合は建築基準法(同施行令)および消防法との関連法規に従って法的な資格者が工事をおこなうこと
火災などの原因になります
- レンジフードの壁への埋め込みはしないこと
漏電した場合、発火するおそれがあります
- 取り扱いは、必ず厚手の手袋をすること
鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります
- 周囲温度が40℃以上になるところには取付けをしないこと
火災・故障の原因になります

注意

- レンジフードの取付けは十分強度のあるところを選んで確実に取付けを行うこと
落下により、けがをするおそれがあります
- 周囲温度が40℃以上になるところには取付けをしないこと
火災・故障の原因になります

1. 取付面の強度確認
………製品を支える強さが必要です。

600mm	製品質量 13.0kg (整流板なしモデル 12.0kg)
750mm	製品質量 14.5kg (整流板なしモデル 13.0kg)
900mm	製品質量 16.0kg (整流板なしモデル 14.5kg)

● 板厚が20mm以下の場合には壁に補強板を埋め込み補強部にレンジフードを取り付けてください。
● 板厚が20mm以上の場合には補強板の必要はありません。

● コンクリート、タイル壁の場合
● あらかじめ補強板を壁に埋め込んでおくか、カールプラグ等を使用し固定してください。

● 土壁の場合
● 柱などに固定した補強板をあらかじめ壁に埋め込んでください。

2. 吊りボルトの設置
2本の吊りボルトを右図および製品寸法図を参照して天井部に取り付けます。
※吊りボルトはM10(右取付)を使用してください。
※吊りボルトは耐荷重200kg・本と同等に取り付けてください。

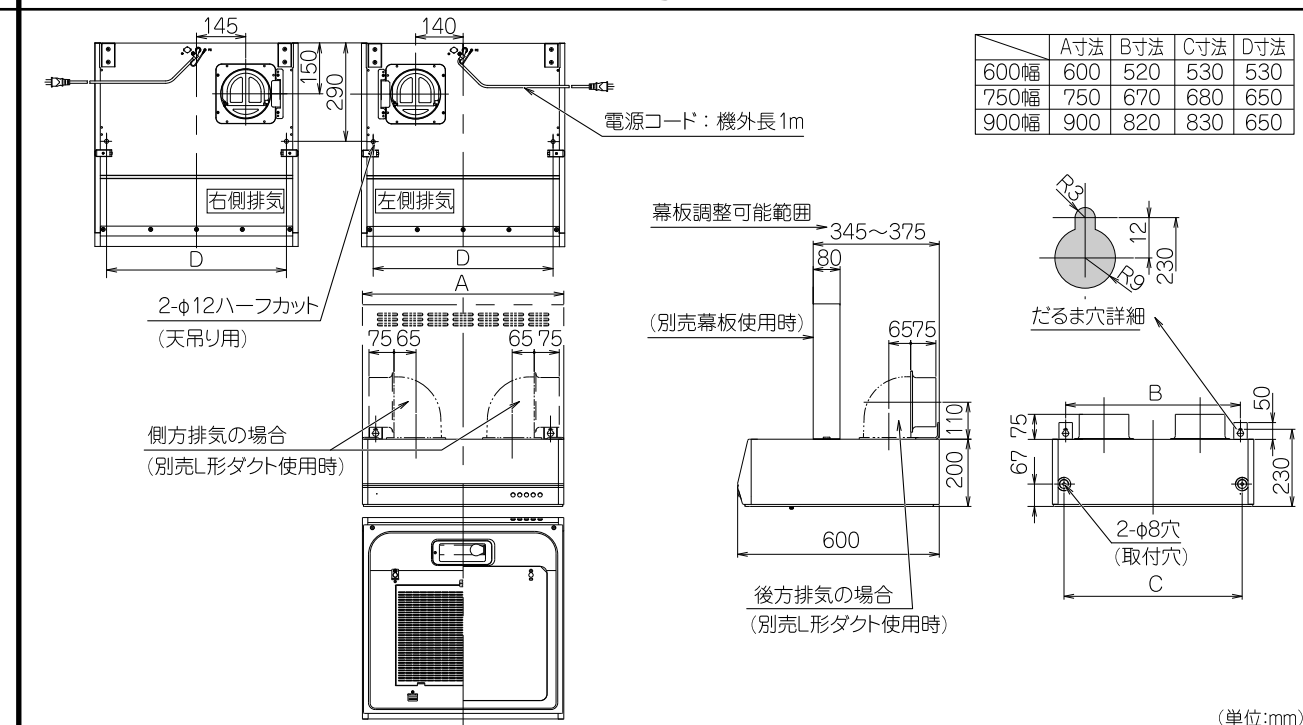
3. 別売部品の準備
排気工事に伴った別売部品の準備が事前に必要です。

4. 標準取付寸法
本製品の標準取付寸法は調理機器の上面から製品の下端まで80cm以上です。
※火災予防条例では、グラスフィルターの下端が調理機器の真上12cm以上必要となっています。

5. 電源コンセント・ブレーカー
電源コンセント・ブレーカーは専用のものを設置してください。(交流・単相 100V)
コンセントは、JIS C 8303 2極接地極付差込接続器 (15A 125V) をご使用ください。

お願い 必ずアース(D種接地工事)をしてください。レンジフードが誤動作することがあります。

製品寸法図



付属品(本体内部に同梱)

品名	略図	用途
座付ねじ		本体の取付けに使用します。
吊金具		本体の取付けに使用します。
排気口		本体とダクトの接続に使用します。 逆流防止シャッター付です。
ソフトテープ		排気口とダクトのすきまをふさぐのに使用します。

取り付けかた

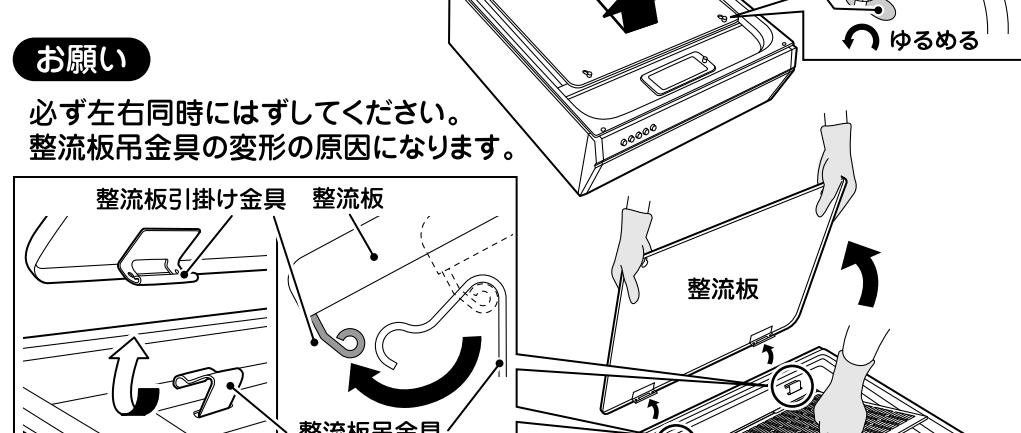
注意

- 取り扱いは、必ず厚手の手袋をすること
鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります

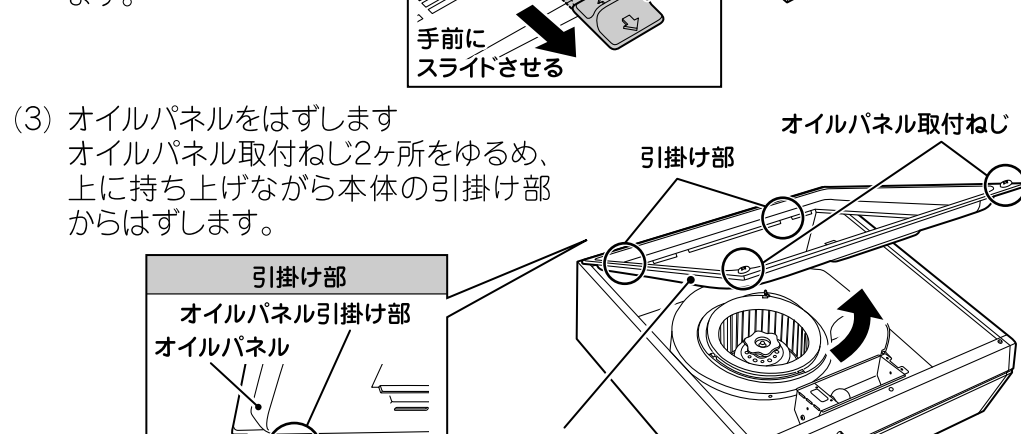
お願い 取付け作業の際はキズ・破損のないように十分注意してください。

1. 本体の準備

(1) 整流板をはずします(整流板なしモデルの場合(2)へ進んでください)
整流板を固定している左右の整流板取付ねじをゆるめます。
整流板取付ねじが当たるま穴の中心位置
までくよう整流板を手前
にずらし、開きながら整流板
吊金具をはずします。



(2) スロットフィルタをはずします
フィルタを押し戻してランプ
カバー側にスライドさせ、
スロットフィルタの突起を
持って、ランプカバー側
やや上側に引いてはずし
ます。



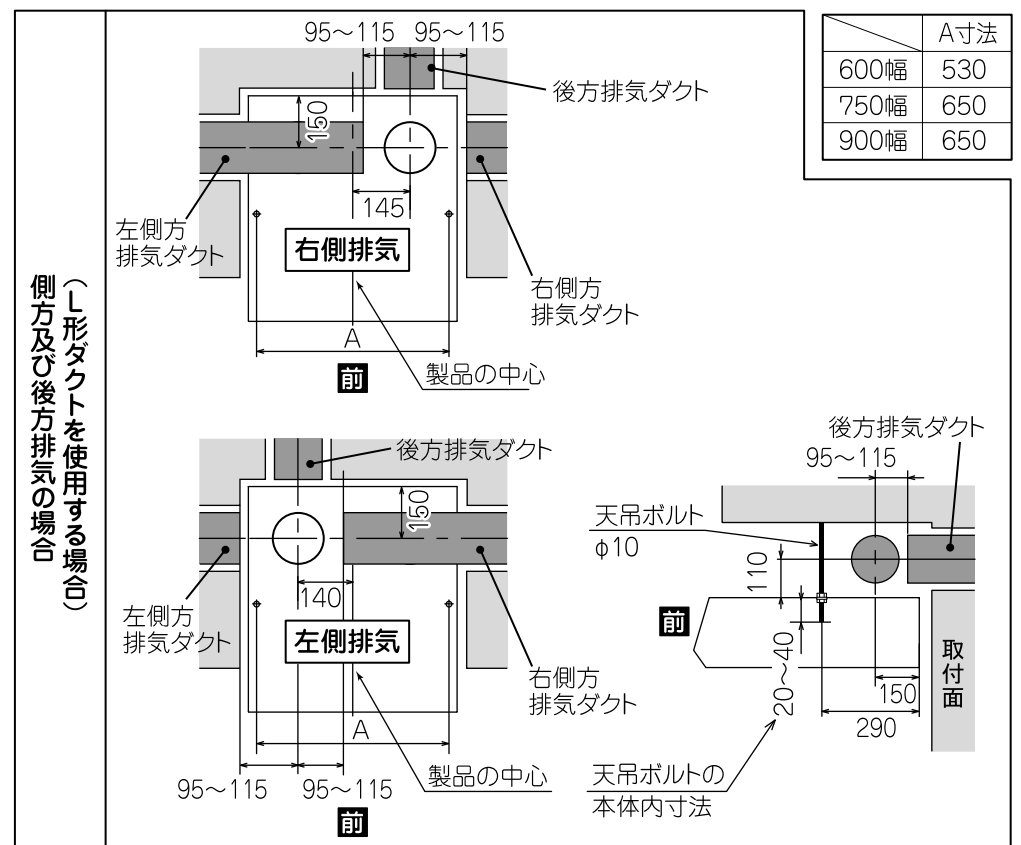
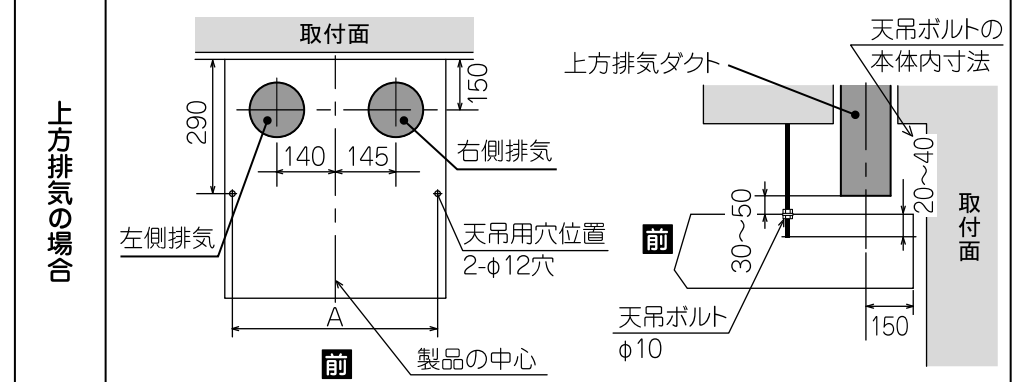
(3) オイルパネルをはずします
オイルパネル取付ねじ2ヶ所をゆるめ、
上を持ち上げながら本体の引掛け部
からはずします。



2. 排気方向の決定

- メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造骨物に金属製ダクトが貫通する場合は、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電気的に接続しないよう取付けを行うこと
漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります
- 排気工事をされる場合は建築基準法(同施行令)および消防法との関連法規に従って法的な資格者が工事をおこなうこと
火災などの原因になります
- 本体とダクトは、可燃物との間を10cm以上離すこと
火災などの原因になります
詳しくは、所轄の消防署に問い合わせください

(1) 製品寸法図を参照し、事前に管工事業者(法的な資格者)へ壁穴の開きを依頼してください。また、コンセントの位置を確認してください。
(2) φ150のステンレスダクト、またはパイプフードを壁のようにレンジフードの上面に突き出すようにセットして、周囲を仕上げます。(コンクリート、タイル、土壁の場合)



3. 排気用部品の準備

■ 上方排気の場合
(1) ソフトテープを排気口に貼り付けます。
(2) 排気口は本体上面の排気口引掛け金具に差し込み、取付ねじ2本で取り付けます。(取付ねじはあらかじめ本体の排気口取付部に取付けてあります)

■ 側方および後方排気の場合(別売部品のL形ダクトを使用する場合)
(1) ソフトテープを排気口に貼り付けます。
(2) L形ダクトに排気口を取り付けます。
排気口はL形ダクトに付属の取付ねじ4本で取り付けます。(本体への取付けは後でおこないます)

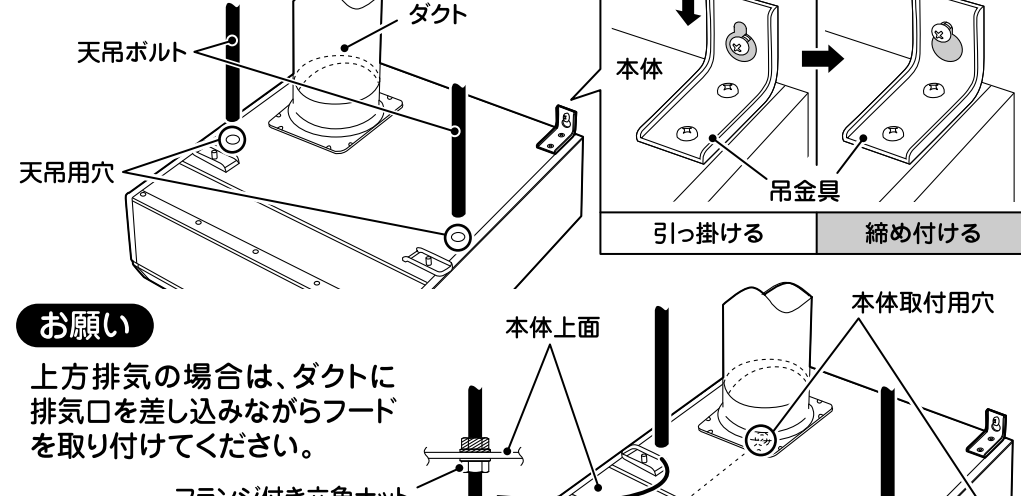
お願い L形ダクトを使用しないで、排気口に直接ダクトを接続して側方・後方排気する場合は、シャッターの開閉に注意して排気口を取り付けてください。下図の「誤った接続例」の場合、排気不良や異常音の原因になります。



4. 本体の取付け

- 吊り金具を取り付けます。
本体上面に付属の吊り金具を、取付ねじ4本で確実に固定します。
(取付ねじはあらかじめ本体の吊り金具取付部に取付けてあります) ※吊り金具は必ず取付ねじ4本で取り付けてください。
- だるま穴用座付ねじをねじ込みます。
だるま穴位置(2ヶ所)に付属の座付ねじ(φ5.1x45:2本)を壁面に差し込み、5mmまで締めつけます。
※だるま穴用座付ねじのもう2本は(5)で使用します。
- フランジ付き六角ナットを取り付けます。
天井ボルト(2本)にフランジ付き六角ナット(2個)を取り付けます。
※天井ボルトにフランジ付き六角ナットは取付業者側で手配願います。

(4) 本体を引っ掛けます。
天井ボルトを本体の天井用穴(2ヶ所)に差し込みながら、だるま穴用座付ねじに本体を引っ掛けます。

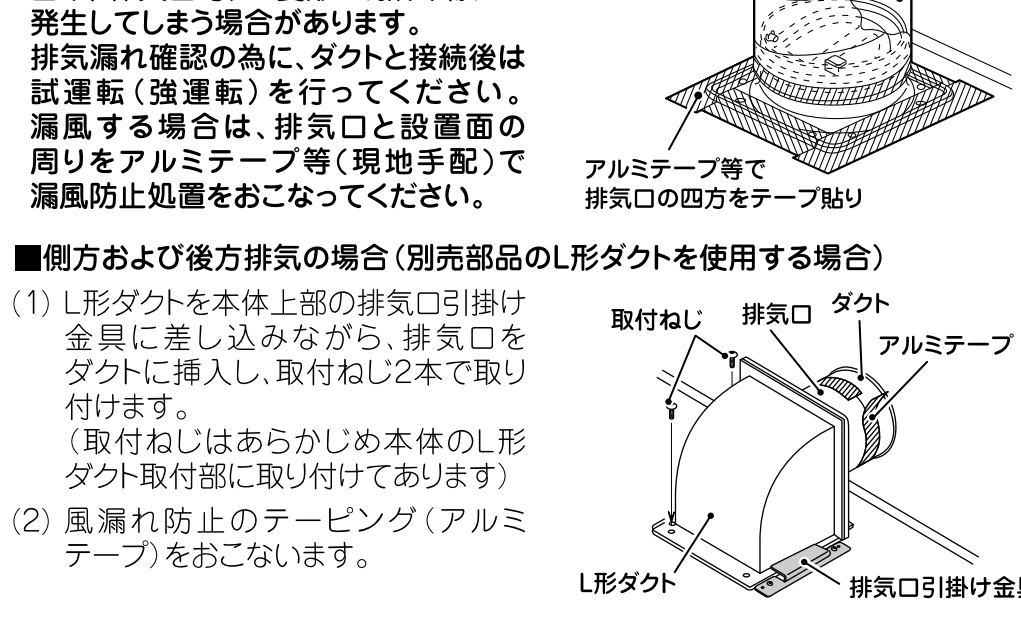


(5) 座付ねじを固定します。
付属品の座付ねじ(φ5.1x45:2本)で本体取付穴(2ヶ所)をしっかり締めつけ、(2)の座付ねじ(2ヶ所)もしっかり締めつけます。

(6) (3)の天井ボルトを固定します。
フランジ付き六角ナット(2個)で(3)の天井ボルト(2本)を締めつけます。
※フランジ付き六角ナットで本体上面をさします。

5. ダクトと排気用部品の接続

お願い ドリリングタッピングねじなどで排気口を固定する場合は、シャッターにねじがあたらないように図のドリリングタッピングねじ使用範囲内に固定してください。



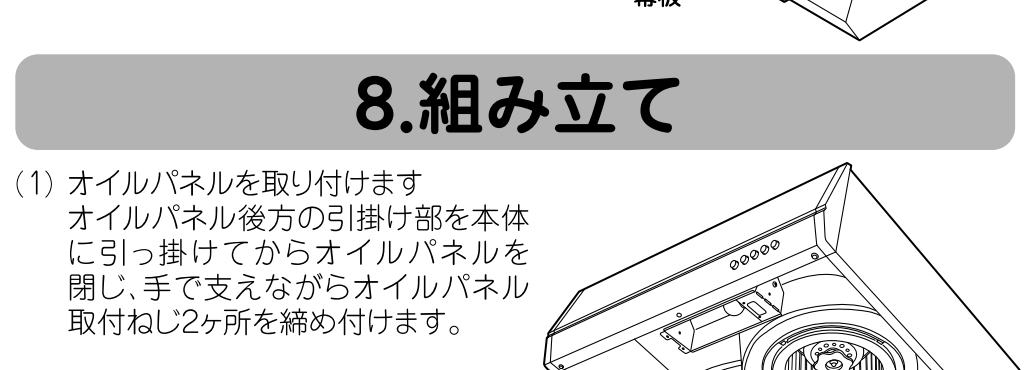
6. 電気配線

- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります
- アースを確実に取り付けること
故障や漏電のときに感電するおそれがあります
アースの取付けは販売店にご相談ください
- 交流100V以外では使用しないこと
火災・感電の原因になります
- 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的な資格者が工事をおこなうこと
誤った配線工事は感電や火災の原因になります

(1) アース(D種接地工事)を取ります。
※アース線は取付業者側にて手配してください。
(2) 分電盤のブレーカーを「切」にし、電源プラグをコンセントに差し込みます。
お願い ● 電源は専用のコンセント(2極接地極付差込接続器 15A・125V)およびブレーカーを使用してください。
● コンセントは、電源コードの長さを考慮して設置してください。

7. 幕板を取り付ける場合

(1) 幕板取付金具のねじ(左右各1ヶ所)をゆるめ、幕板を前から幕板取付金具と本体の間に差し込みます。
(2) 幕板の取付位置を決め、幕板取付金具のねじを締めつけて固定します。



8. 組み立て

(1) オイルパネルを取り付けます
オイルパネル後方の引掛け部を本体に引っ掛けてからオイルパネルを開き、手で支えながらオイルパネル取付ねじ2ヶ所を締めつけます。

(2) スロットフィルタを取り付けます
オイルパネルの溝部分にスロットフィルタを差し込み、フィルタを奥側にスライドさせて固定します。

(3) 整流板を取り付けます
整流板取付ねじを整流板吊金具に引っ掛け、整流板取付ねじを整流板のだるま穴に通してから整流板を後方に押し込み、整流板取付ねじを締めつけます。

整流板を取り付けた後、図のように整流板取付ねじがだるま穴の上部にくるようにしてください。
お願い 整流板を固定している整流板取付ねじは電動工具で締め付けしないでください。ねじが破損する恐れがあります。

9. 試運転

● 分電盤のブレーカーを「入」にし、スイッチを操作して運転状態を確認してください。
スイッチの操作と運転状態については取扱説明書をご覧ください。
● 運転時、各送風の排気が正しく行われていることを確認してください。
● 異常な騒音、振動がないことを確認してください。
● 屋外の排気出口から排気されていることを確認してください。
● 取り付けたまたは各種工事に発生した不具合で修理を依頼されますと全て有料となりますのでご注意ください。

10. お客様への説明

● 取扱説明書によって機器の取扱いを説明してください。
● 取扱説明書と共に、この取付説明書を必ずお客様にお渡しください。